

海夫通信 第47号

【海夫】潮の香りをほのかに残すここ霞ヶ浦にもかつては多くの海の民がいた。海に寄り添い、潮の流れとともに暮らしていた人たちに思いを寄せて、今生きる霞ヶ浦の海夫たらんとす。

NPO法人霞ヶ浦アカデミー会報



CONTENTS

【特集】霞ヶ浦×音楽

【新連載】霞ヶ浦北浦 歴史的不漁の謎を解く

【写真】1953年の帆引き船

霞ヶ浦イメージソング「君はいつもそばに」



NPO法人霞ヶ浦アカデミー理事長
君はいつもそばに プロデューサー

荒井一美

平成元年に霞ヶ浦情報センターを設立して代表に就任した。

その8年後、世界湖沼会議が本県で開催されることになり、運営委員会により世界湖沼市民の会を設立することとなり、市民参加型として実施された。

この会は会議後解散されることとなっていたがセンターと合体させた形で一般社団法人霞ヶ浦市民協会として誕生した。

この市民協会は泳げる霞ヶ浦をテーマにフェステバルを行政から請負開催していたが、運営会議に霞ヶ浦のイメージソングを作りCD化する提案をして受け入れられた。

公募した六十数編の詩の中から、選定委員会で十数編に絞込み、デザイン協力を頂いた藤代範雄氏の関係から湯川れい子氏に最終選考をお願いした。

最終選考で選ばれたのは知り合いのシンガーソングライターの前田直弥氏の作品であった。二番までの作品だったが長いので三番までしてもらったことにした。作曲は藤代氏の関係で手塚伸吉氏にお願いした。

詩と曲を最終的に完成させるために霞ヶ浦の風を感じた後、半合宿みたいにして作詞者、作曲者とプロデューサーとしての私の3人で完成させた。

CDを作成するに当たりボーカルコ

ンテストをフェステバルで実施するが、応募者それぞれが個性があり優勝者は決めたが、全員でCD作りを実施することになった。

録音当日は全員で霞ヶ浦湖畔で風と空気を感じてから臨んだ。最初にドラムをプロの方にお願した。続いてギター、キーボード、オーボエなどのパ

ートの録音、その後個々のボーカルの録音と進められた。最後は全員参加でコーラスの録音と詰め込んだ日程で終了。その後それぞれの歌声を活かした編集として音源が完成したのちCD化した。

この「君はいつもそばに」は霞ヶ浦イメージソングではあるが曲中に霞ヶ浦の言葉は無い。同じような湖沼を抱えた地域の方々にも歌ってもらいたいとの思いも込められている。

茨城県庁内に休憩タイムに全館放送を長期間にわたり放送して頂いたこともあった。

一般社団法人霞ヶ浦市民協会は著作権フリーにしたので、皆さんで歌ってもらえれば幸いである。

NPO法人霞ヶ浦アカデミーではこれを機会に活動のテーマソングとして参加者に歌ってもらうことにしたい。

最後にこのイメージソングを作成に当たりボランティア的に協力を頂いた皆さんをはじめ完成に協力頂いたすべての団体や方々に感謝します。

巻末に歌詞とYouTubeで聴けるQRコードを掲載しています

「霞ヶ浦×音楽」

どこまでも広がる空と、想像力を掻き立てる奥行きを持つ霞ヶ浦。今回も、たくさんの親子が集まってくれました。

この日、音楽を楽しみながら、霞ヶ浦湖畔を歩くイベントをさせていただきました。僕は、日本全国の森の中で、音楽×自然体験のイベントをさせていただいています。

自然を知ること、知識だけではなく、感性を必要とすること。普段から見慣れた景色でも、音楽を聴きながら歩くと特別な風景に見える、感性にうったえる音楽を聴きながら自然を学ぶごろんコンサートの醍醐味です。

どのような自然の知識も、左脳だけで受け取ってしまえばただの知識です。でも、知識は右脳の力があ



ること、想像力によって膨らませることができ。霞ヶ浦湖畔の野草の生き方を知りながら、歩きながら聴く音楽。湖畔で水面を眺めながら風景と共に聴く音楽。草原に寝転がって雲を眺めながら聴く音楽。木に登って木を揺らしながら聴く音楽。今回も様々な楽しみ方をしていたきました。

この一瞬を、子ども達がいつか特別なものとして思い出してくれたら、この霞ヶ浦の自然が原風景として大人になっても心に刻まれるのではないだろうか。音楽×自然の時間が、少しでもそのお手伝いになればと思っています。



寄稿

霞ヶ浦周航歌

前ラクスマリーナ専務
秋元 昭臣 (土浦市)

✉ akimotoakiomi@gmail.com

つくばりんりんロード カスイチ ビワイチ しまなみ海道 九州日南海岸サイクリングして思ったこと

「つくばりんりんロード」は一般道との交差点はありますが自転車専用道はほぼ平らで筑波山系と穀倉地帯を走ります。土浦駅にはコンビニやサイクリングに特化したホテル、カフェ、自転車専門店と駅港内には自転車ロッカー、分解組み立て場所もあり、すぐ脇には駐輪場も確保されている上、常磐線では自転車ごと乗れるサイクルトレインも運行されます。東京、大阪、成田への高速バスはありますが自転車載せることが出来ないことは大きな課題と考えます。

「カスイチ」は土浦を起点として湖岸一般道を車と走りますが自転車専用部分もあり「ビワイチ」のように並走する車の恐怖を感じることはありませんし湖北長浜のキツイ峠越えもありません。琵琶湖周航歌詞とは逆廻りになります。「しまなみ海道」は橋に上がる緩い自転車道もあり橋と穏やかな海と島の魅力を楽しめる工夫が島ごとにあり、一日弾丸サイクリングだけでなく好きな島への立ち寄りサイクリングの工夫がありました。四国の海岸道は急坂は少なく大都市からはフェリーが多方面に出て瀬戸内とその島が楽しめます。小豆島の映画村に行き「24の瞳」の映画を楽しみました。本四3橋で歩道があるのは一橋だけですのでバスは全てのコースで輪行が可能ですとのことです。橋に歩道が

欲しいと思いは地元にもあるように設置が検討がされているそうです。徳島発着四国一周1000Kmのサイクリング案内矢羽根がR11にあり自転車にかける意気込みを感じました。しまなみ海道終点今治から徳島までR11は海岸の坂道はそんなに多くなく道の駅もあつて穏やかな瀬戸内が満喫できました。自然と「瀬戸の花嫁」を口ずさんでしまいました。琵琶湖、瀬戸内を参考に霞ヶ浦での舟運観光の見直しが必要と痛感しました。九州日南海岸のR220は太平洋に面するリアス式海岸で瀬戸

内とは対照的に男性的であり峠越えのダラダラ坂道には脚力不足をトンネルの轟音には恐怖を感じました。歌はでませんでした。東京から博多までの夜行バスは自転車OKでした。福岡市では大きな荷物インバウンドが多く市内バスもベビーカーと共に自転車も袋に入ればOKが当たり前と聞き生活の中のバリアフリー化にはビックリしました。新門司、東京、宮崎、神戸、志布志、大阪には大型フェリーも就航しており、今回の鹿児島県志布志港から大阪南港への船旅は魅力的でした。

まとめ



「霞ヶ浦周航歌」が県内いたるところで歌い演奏される「りんりんロード」「カスイチ」は首都圏に近く誰でも気軽に手軽に音楽を楽しみながらサイクリングを楽しめる日本有数の素晴らしい場所と確信しました。土浦市は舟運を含めその中心的立地と考えられます。

「霞ヶ浦周航歌」は北浦を含む西浦・北浦・外浪逆浦・常陸利根川の25.2Kmは日本一の湖岸サイクリング道であり北は水戸から福島へ太平洋海岸線に連なり南は銚子を経て房総半島へ伸び「りんりんロード」を伸ばせば日光と広域のサイクリングゾーンになれます。

「カスイチ」と合わせて「ツクイチ」のヒルクライムルートを持つことは若者の誘致に繋がります。「りんりん・カスイチ」の特徴である「人車分離」に加え琵琶湖の定点休憩所(トイレ・四阿・駐車場)の設置。道の駅的な休憩所と地域独自の食文化を活かした食事場所。歴史を探索出来る「霞ヶ浦周航歌」のサブルート開発等と共に若者が宿泊出来る格安宿(ライダーズハウス、ゲストハウス、コンドミニアム等)。「りんりん」「カスイチ」と並行して走る輪行の出来る公共交通機関の存在も大きな助けになると思います。アクセスについては東京、羽田、成田からの土浦への高速バスと関西方面は

大阪・京都からの直通夜行バスの輪行ができたら「ビワイチ」「しまなみ海道」と「カスイチ」が近づき良い循環が生まれますので関鉄バスには輪行ができるようになることを強くお願いいたします。船にそのまま自転車載せる「サイクルーズ」の航路をもっと増やし舟運を活かした輪行は「カスイチ」を手軽に楽しく利用するポイントになると思います。

更に秘めた宝物は温泉です。県北の温泉は有名ですがつくば・霞ヶ浦・北浦周辺にはいくつもの点在する温泉があります。それらを「霞ヶ浦周航歌」「つくば・霞ヶ浦サイクリングロード」でつなぎ活かせれば新たな「霞ヶ浦温泉郷」も夢では無く、更に他にはない「船で巡る温泉郷」として宿泊利用も増加すると考えます。

100年前の「琵琶湖周航歌」に憧れてビワイチを走りましたが、「霞ヶ浦周航歌」を歌いその歌詞に導かれ史跡や名所を巡り温泉に浸れる「カスイチ」は「ビワイチ」に勝るとも劣らない素晴らしい日本一の観光サイクリングゾーンになると考え「霞ヶ浦周航歌」が広く県民の歌として歌われることを願っています。



▲YouTubeで聴けます (つくばNEWS)

会 員 募 集

NPO法人霞ヶ浦アカデミーは、みなさまのご支援により活動を続けてきています。活動を共にしてくれる、また応援してくれる会員を募集しています。ご協力よろしくお願いたします。

普通会員 入会金 1,000円 / 年会費 3,000円
賛助会員 1口 10,000円

[入会の方法]

氏名、住所、連絡先、会員の種類をご記載の上、メールもしくは郵送でご連絡下さい。

海夫通信では、みなさまからの掲載する原稿・写真を募集しています。昔の霞ヶ浦の様子や、庭にいた珍しい生き物、お気に入りの自然スポット、本の感想などテーマ問わず原稿をお寄せください。

いいね！お願いします

facebook で
日々の活動を更新中!



その1 漁獲量の軌跡

を解く



浜田篤信。東北大学農学部修士課程修了(海洋学専攻)。農学博士。東北大学助手を経て、茨城県水産試験場内水面試験場に勤務。茨城県内水面水産試験場長として活躍後、(有)霞ヶ浦生態系研究所を設立。霞ヶ浦アカデミー監事。

ワカサギは、日本全国で賞味される霞ヶ浦北浦の特産品ですが、最近「ワカサギ不漁」が新聞紙上でとりあげられています。

「霞ヶ浦のワカサギ不漁 謎探る 漁獲量10年で7分の1(日本経済新聞、2021年9月13日)」、「霞ヶ浦のワカサギ 歴史的に不漁 夏の高水温が影響(茨城新聞、2023年10月31日)」、「冬の霞ヶ浦からワカサギが消えた 漁獲量激減 全国有数の産地で何がこったか(東京新聞、2024年4月13日)」などです。

ですが、不漁はワカサギに限られたわけではなく、佃煮の原料であるハゼ類やテナガエビでも同様にイカダヤキに加工されていたタナゴ類や小鮒は「不漁」を超え絶滅に瀕し話題にさえならない状態です。

まさに漁業が消滅の危機にたたされているといえるでしょう。ワカサギ不漁の原因は夏季の温暖化とされているようですが、納得できる説明は聞こえてきません。ワカサギを筆頭に霞ヶ浦北浦の各種魚類の不漁謎を解き明かすことが本稿の目的です。

まず、霞ヶ浦北浦の漁獲量がどのような軌跡をたどってきたかを詳しく見てみましょう。

霞ヶ浦北浦の総漁獲量は1907年から記録が残されています(図1)。約100年におよぶ総漁獲量の推移をみると、図中白矢印で示したように4箇所に大きな変極点があることがわかります。1910、1950、1975および2000年前後です。歴史的に不漁とされるのは、漁獲量の低下がはじまり、漁獲量が底をつくようになった2003年、あるいは漁獲量が最盛期の30分の1の652トンにまで減少した2012年のことを指すのでしょうか。

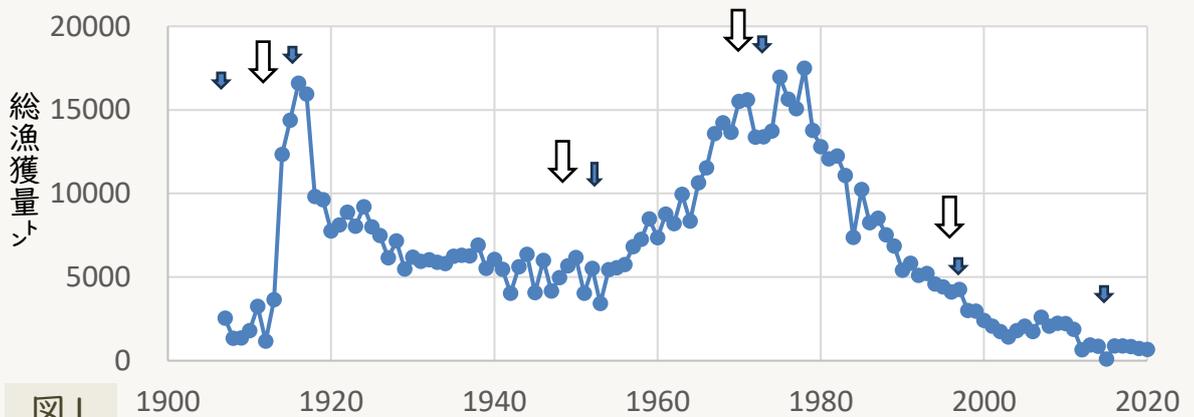


図1

第一期 漁業黄金期

漁獲量は明治時代後期には5千トン以下ですが、1914年に突然に1万トンを上回るようになっていきます(図中矢印)。この漁獲量の急

激な増加を支えているのは、タンカイ(カラスガイ)、イサザアミおよびエビ類で、これらが漁獲対象になったことが大きな原因となっています。特にタンカイの漁獲量が1920年までの間に数千トン占めています。したがって、この時期に、なぜタンカイとイサザアミが急増したかが鍵を握っています。イサザアミの生息条件の一つは、ある程度の塩分が必要(50mg程度)の塩素イオンが必要とされています。したがって、1910〜14年、明治時代末期から大正時代初期にイサザアミの生息を可能にするような環境変化が生じたものとみられます。

とすれば、その環境変化を引き起こしたのは何であったかを明らかにしなければなりません。この期の塩素イオン濃度を直接測定した例は見当たりませんが、柱状態で採取した堆積物中の塩素イオン濃度が則ち決定されており、堆積速度からこの時代に塩素イオンが上昇したことを示す研究報告があります(詳細は霞ヶ浦研究会報12)。

この塩素イオンの上昇をもたらしたものは、河川工事ではないかと考えられます。江戸時代末期になると霞ヶ浦北浦は、下流への土砂の堆積によって閉塞状態が進んで舟運に支障が生じ洪水にも見舞われるようになり、江戸時代にも瀬替えが行われていたが、本格的に土木工事が行われるようになるのは明治8年(1875)のオランダからの技術者招聘による利根川低水工事、これに続いて明治33年(1900年)着工の利根川高水工事が、塩素イオン上昇の原因と考えられます。利根川河口から佐原付近までの浚渫工事が1910年に完成し閉塞状態が緩和され、下流から塩分を含んだ利根川河水が湖内に逆流するようになったものと考えられます。この時代には利根川が浪逆浦を経て太平洋に流出していたので利根川の霞ヶ浦北浦への影響は、とても大きかったものと考えられます。漁獲量は1920年ごろから減衰に向かいますが、その原因は、利根川流路の変更や、改修事業完了後の土砂の堆積による閉塞状態の進行と考えられます。

霞ヶ浦北浦

歴史的な不漁の謎

第二期黄金時代

漁獲量は1955年頃から再び上昇期に入り1980年頃に再び高い漁獲量を示すようになります。1955年後半には1948年にはじまった下流北

利根川改修が進んで湖水の塩分が急上昇し、丁度、第一期黄金時代の環境が再現されるようになっていきます。このところが約

25年におよぶ漁獲量増加をもたらすことになった原因と考えられるのです。1955年から1967年頃までは、ワカサギシラウオが漁獲量増を担っていましたが1963年以降になるとワカサギ・シラウオに代わってエビ類・ハゼ類が中心となっていきます。

以上のように霞ヶ浦北浦の2回の漁獲量増加をもたらした原因は霞ヶ浦北浦下流の河川改修と考えられます。

漁獲量減衰第1及び第2期

1910年頃から始まった漁獲増大は、比較的短期で1917年頃からは減衰に転じています。

1916年に16600トあった総漁獲量は1930年以降になると5000ト前後で推移するようになり、1953に4000トを下回り3424トという

総漁獲量の低値を記録していますが、低下したとはいえ、5000ト前後で推移し、それ以下には低下していません。この第一期の減衰を1978年に始まる第二期の漁獲量減衰に比べると、第一期が約4000ト以

下には低下していないのに対し、第二期の減衰は1997年までの20年間に年率7%で3000トにまで低下、その後、さらに減少を続け、2022年の歴史的不漁の625トにまで低下しています。

漁獲量変動の原因

以上のように霞ヶ浦北浦の漁獲量変動は、小刻みな変動ではなく、極めて単調な長期変動を示しています。前述の新聞では歴史的不漁の原因として高水温が上げられていました。また、

穴道湖では農業が原因とされています。しかし霞ヶ浦北浦における総漁獲量の変動は気象条件や農業で説明することができないものです。しかも漁獲

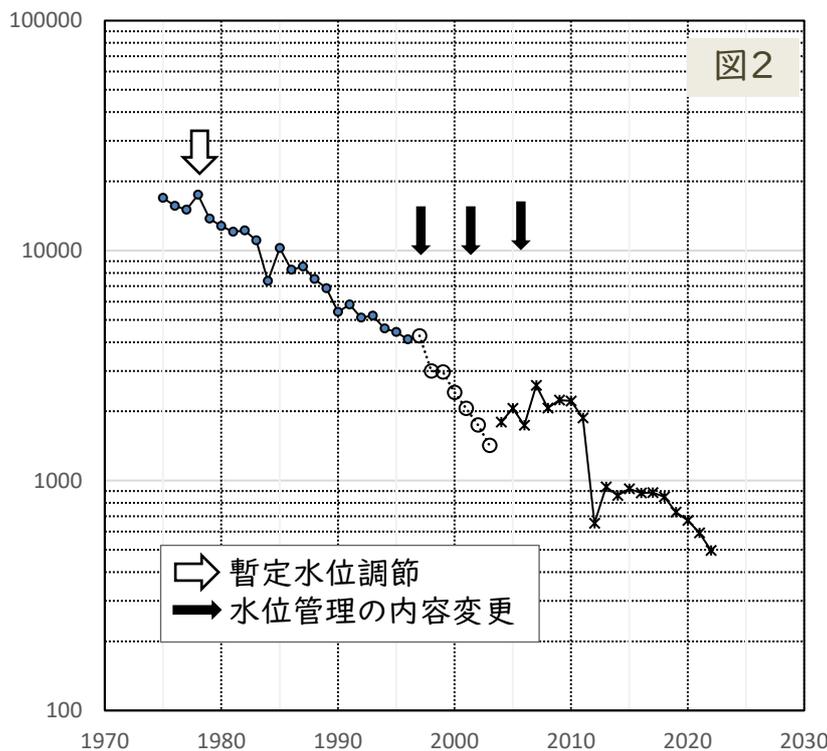
大変動の時期は、100年の間に6回で、それぞれの変動開始時期は、図中の白矢印で示した1910、1945、1975および1996年の4回で、それぞれ利根川高水工事、常陸川改修工事、常陸川水門完全操作開始及び霞ヶ浦開発事業完了・管理に該当します。したがって霞ヶ浦北浦の漁獲量変動の原因は、増加・減少の両方が、河川改修等の人間活動によるものと見ることができま

歴史的な不漁の原因は

ここで問題となっている歴史的不漁の起点は1975年です。なので、1975年以降の漁獲変動を詳細に検討しましょう。この年から「塩害防止のため

の常陸川水門による暫定水位調節」が始まり水位が10センチメートルほど高めに管理されることとなります(図2、白矢印)。漁獲量は年率7%で1996年まで規則的に減少を続けています。ところが1996年以降になると漁獲量の減少がさらに急激となり2003年頃までは年率17%で減少が激化してきます。1996年には霞ヶ浦開発事業が完成し、以後は管理の時代にはいります。図中黒矢印で示した時点で管理の内容が変りますが2001年までは、それ以前よりも更に10センチ、冬期には30センチ高めに管理

されることとなります。その後2011年頃までは漁獲量は2000ト前後で推移していますが、それ以降になると急激な減少が再現しています。以上のように霞ヶ浦北浦の歴史的不漁を2012年以降の総漁獲量1000ト以下とすれば、その原因は常陸川水門による暫定水位調節と霞ヶ浦開発事業の目標水位の管理にあると云えるでしょう。水資源開発管理が、どのようなメカニズムで漁獲量の減少をもたらしているかが、大切ですが、これについて後述することといたします。



「本の紹介」

イラクに霞ヶ浦があった！

森 保文

砂漠のイメージがあるイラクですが、実はそこに巨大な湖沼（湿地帯）があるというのをこの本で初めて知りました。その面積はなんと広い時は四国ほど、小さくて徳島県ほど。よく考えてみると、昔、世界四大文明というのを習いました。その一つメソポタミア文明はチグリス川とユーフラテス川が生んだもので、それは今のイラクにあります。イラクに大河があるのは当たり前で、そこに湿地帯があるのは不思議でもなんでもなかったのですが、それにしては広い。

私の興味はもっぱら葦にあります。葦（カサブ）で作った浮島（チバシエ）に住み、水牛を飼い、魚を取り、葦の小屋に暮らす人たちがいます。葦小屋といってもゲストハウス（ムディーフ）は巨大で豪華絢爛、結婚式場のようです。葦と共に暮らす民族がいるのは南米チチカカ湖だけではなかったことに驚きます。残念なのは葦舟を作っていないことです。

この本は、探検家である著者がこの湿地帯に住む人たちの暮らしを見分するノン

フィクションなのですが、イラクとイランの文化や宗教の違い、氏族社会の仕組みを利用した安全確保の方法など新しく知ることが多く、また袖の下の必要のない行政手続き、データに基づく流域管理など実は先進国と比べていい国で、それを当然とみんなが思っていることにも驚きます。

チグリス川もユーフラテス川も、トルコやシリア、イラクを通る国際河川で、イラクを含め多くのダムが作られ取水され、それらがどんどん増えていることにも触れており、将来この湿地帯が消える心配があります。イラクの名物料理はサマツチ・マスグーフだそうで、これは著者命名で「鯉の円盤焼き」。鯉を背開きにして

塩を振って、街中では薪を、湿地帯の中では葦を燃やして豪快に焼くというもの。おいしいのか？と疑問符がつくところですが、著者たちはとても美味だと感動しています。行く先々で必ずご馳走されるということですから、日本だと寿司とか天婦羅に相当するものではないでしょうか。

鯉は霞ヶ浦の特産物の一つですから、私のもっかの野望は、このサマツチ・マスグーフを霞ヶ浦で料理して食べることです。葦で焼ければ最高です。問題は、どうやって鯉を手に入れるかです。生き物アカデミーの時に誰か捕まえてくれないかなあ。

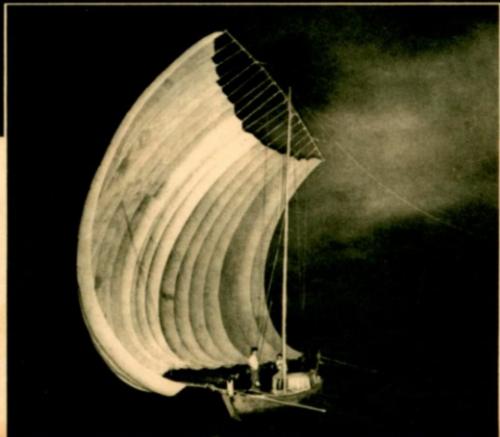
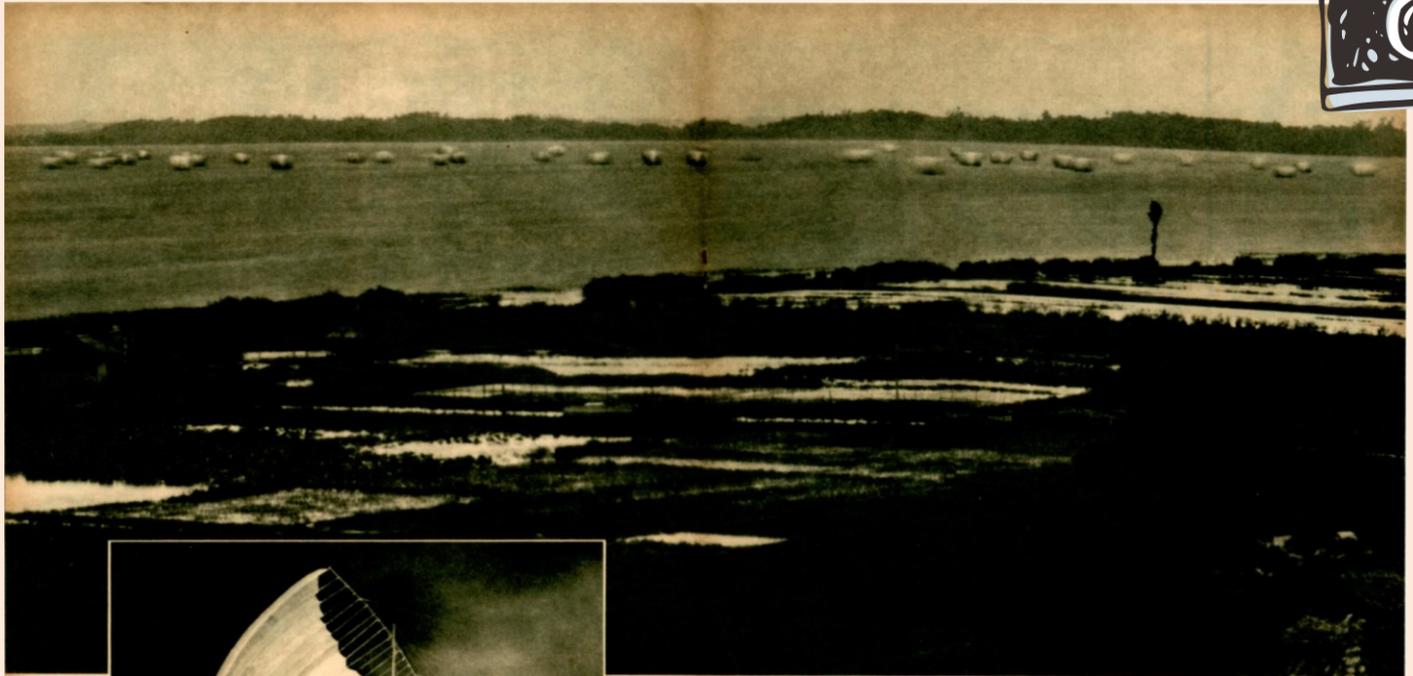


中田英雄先生（筑波大学名誉教授）が長崎県の古書店で1953年発行のアサヒグラフを見つけて送ってくださったさいました。驚くほど多くの帆引き船が写っています。撮影地は歩崎。



水滸伝 謎の巨大湿地帯

高野秀行「イラク水滸伝」(文藝春秋) 2,420円



カメラ風土記 霞ヶ浦の帆曳き舟

長崎県佐賀郡佐賀町に伝わる「帆曳き舟」は、江戸時代から明治時代まで、漁業に用いられていた。この舟は、舟の両側に帆を張り、帆を引いて進む。この舟は、現在でも、観光用に用いられている。アサヒグラフ(1953), 8.12, 14-15, 朝日新聞社

Writer 西谷篤彦
元大学病院薬剤部・(独)医薬品医療機器総合機構勤務薬剤師。霞ヶ浦アカデミーの会員で、故郷の環境保全、地方活性化を願いつつ横浜と霞ヶ浦の家との二地域居住生活を続けている。



奥井登美子
薬剤師。1895年創業の奥井薬局を営む傍ら、霞ヶ浦の自然を守る活動などに参加。1933年生まれ、土浦市在住。

昨年からマイコプラズマ、肺炎、インフルエンザが大流行している。手洗い、うがい、マスクの予防対策を一層強めてまだ寒さ厳しいこの時期を健やかに過ごしましょう。

今回は土浦の奥井薬局の奥井登美子さんの「世界的視野で語る感染症の課題と今後の取り組み」の記事を取り上げたい。文中に出てくるケイジ・フクダ先生は、ご両親が茨城県出身、元WHO事務局長補佐で国際的に活躍している方である。2019年土浦保健所所長らの招聘で、茨城県主催で水戸市プラザホテルにて「国際的な感染症の課題と今後の取り組み」と題してケイジ・フクダ先生の講演会が開催された。私も2020年コロナが流行する前に、スイスジュネーブのWHO本部を訪問して、ケイジ・フクダ先生にお会いしてお話を聞くとともに、2019年日本での2回(聖路加国際大学臨床研究センター、水戸市プラザホテル)の先生の講演を拝聴している。

「世界的視野で語る感染症対策」

5月13日水戸プラザホテルで医療関係者と自治体関係者むけのケイジ・フクダさんの講演会があった。テーマは「国際的な感染症の課題と今後の取り組み」。

ケイジさんは土浦で生まれて、アメリカのバーモント大学で医師になり、アトランタの疾病予防管理センターで感染症を研究し、2005年から世界保健機構WHOでインフルエンザ対策にあたった世界的な感染症のプロである。WHOのマーガレット・チャン氏の関係で、現在は香港大学の教授として活躍している。

ケイジさんの父の実さんは、土浦の沖宿の生まれで、九州大学の医学部麻酔科の陣内教授の下で研究し、アメリカに渡ってからも人柄を買われて、州の医師会長をするなど、国際的な活躍をしていた。母親の道子さんは土浦フレンド数会の中村万作牧師の娘で、医者として土浦協同病院に勤務していたこともある。福田家の兄弟ふたり、中村家の姉妹ふたり、偶然仲良く結婚し、私たちは親戚として、仲の良い友人として、この4人と付き合っていた。道子さんはよく私にお手紙をくださった。実さんは道子さんが亡くなった後も、日本に、故郷の霞ヶ浦の風景と茨城の言葉が聞きたくて、必ず土浦に来て、私の車で沖宿の福田家の墓まいりをしてから歩崎のあたりを散策するのが習いになってしまった。ケイジさんの弟の、クリストファーは時々土浦に遊びに来て、うちの娘と筑波山に登ったりしていたが、ケイジさんは、家族がアメリカに行く前の、幼い時にお会いして以来である。ケイジさんの祖父の中村万作牧師は、長い間、奥井家の精神的支柱であった。戦争

中も戦後も自分を失わない人間として強い精神を貫いた人。
父親の実さんは、国際人でありながらとても優しい細やかな人だった。ケイジさんにお会いして、声が、父親の実さんとそっくりで、ふと、涙が出そうになってしまった。

ケイジさんの英語の講演を、聞きながら、

- 1 感染症の内容の深刻な大きさ。
- 2 世界的な流通の時代への対策。
- 3 大き過ぎる問題に挑む一途な姿勢
- 4 医療が不完全な開発途上国の住民に対する優しさ

特に、開発途上国の人に対する優しさは、祖父の中村万作さん、父親の福田実さんと、共通した人間への愛にほかならない。成人してからは、初めてお会いした方なのに、何かとても、なつかしい感じのする方だった。なぜだろう?祖父と、父母の、大きさと、優しさを、一つの身体の中にもっている人。そう考えて、私はケイジさんと堅い握手をしたのだった。



(一番右) 寄稿者の西谷篤彦さん。(右から3番目) ケイジ・フクダ先生。(右から4番目) 奥井登美子さん。

カヌークラブから

今年も
千葉県知事杯争奪第43回クラブ対抗
カヌー競技大会に
6人のメンバーで参加してきました。

行方カヌークラブHP

生態系を破壊
北浦通水、水面下で

松田県議「もう止められない」
国交省「検討すらしていない」

霞ヶ浦導水事業を拡大して北浦へも通水しようとする事業(北浦通水)が水面下で動いている。昨年6月の県議会で潮来・行方選出の松田千春県議(元額賀福志郎衆議院議員秘書)が北浦通水について要望する質問をすると、県担当者は要望について国に伝えると回答。

霞ヶ浦アカデミーは国交省に公開質問状を送付し、必要性や計画の有無について等、文書で回答を求めた。国交省からは「文書での回答は差し控

えたい」との電話があり、口頭で「検討すらしていない」と回答。

一方、松田県議が地元周りの際、北浦通水について反対の声に対し「もう止められないのでは」と話していたそう。

一昨年、額賀福志郎氏が衆議院議員議長に選出。その年、国立環境研究所の研究者が額賀氏に北浦通水の浄化効果についてヒアリングを受けている。そこから既に構想は始まっていたのだとすると、北浦通水は水面下で着実に動いていることになる。

生物多様性の重要さが大きく叫ばれる今、北浦と那珂川をつなげていいの?



季節は巡り 時は移ろいゆくけれど 気が付けば変わらない 君はいつもそばに

子供達のはしゃぐ声 大人が見つめて 水辺に遊ぶ穏やかな ありふれた風景
湛えた水はどんな色 何も語らずに 君はいやしてくれる 優しく包んで
季節は巡り 時は移ろいゆくけれど 気が付けば変わらない 君はいつもそばに

小舟がいくつも浮かんで 波紋を広げて 人に恵みと喜びを与えていた毎日
汚されたことの怒りは 青き底に沈め 君は許してくれる いつでも迎えて
子供の次のまたその先まで手渡して いつまでも変わらない 君はいつもそばに

水面に映る夕日は素敵なのと時 ここに暮らした人が皆 感じていた喜び
眩しいほどにこの水が 光るキラキラと 君も僕も願っている 笑顔の未来を
感じて欲しい こんなに近くにいることを すぐにでも触れ合える 君はいつもそばに
感じて欲しい こんなに近くにいることを すぐにでも触れ合える 君はいつもそばに
君はいつもそばに

水景湧水地研究所

別府弁天池

Vol.13



ライター／菊地早秋
プロフィール／

<https://kominkaijyu.com/saki-profile/>

日本全国の美しい水にまつわるスポットをご紹介します

エリア（みねし）山口県美祿市
湧水地…別府弁天池
より車で約25分

今回紹介するのは山口県の「別府弁天池」です。こちらは「別府厳島神社」の境内にある池で、山口県の名水百選にも選ばれています。毎分1トンの水が湧き出ており、池の水はコバルトブルーの輝きを放ちます。池がひととき青く見えるのは、光の性質・水中に溶け込むミネラルが影響しているそうですが、まだ解明途中とのこと。水深は一番深いところで4・5メートルですが、あまりの透明度に深さを感じません。池の底にはところどころ赤い石が転がっています。これは絶滅危惧種でもある藻類の一種、ベニマダラです。ベニマダラは清流の日陰でしか生きられない、貴重な生物だそうですよ。

ここがイチオシ
別府弁天池は約15分のドライブで、日本最大のカルスト台地「秋吉台」に行けます。カルスト台地とは、主に珊瑚礁の死骸などが積もってできた石灰岩が作り出した地形です。秋吉台の地下には、日本屈指の大鍾乳洞「秋芳洞」もあり、神秘的な世界を味わえます。



秋芳洞の入り口



赤い石がベニマダラ



別府弁天池

編集後記

市民活動の歴史はググっても分からないことが多いです。活動するだけで大変なのだから報告できない理由もよく分かります。今年度はきっちり4回、本誌を発行できました。ご協力ありがとうございました。子どもと過ごす時は童謡がずっと流れていて、ふと不思議に思ったことがあります。大きな栗の木の下で遊んで棘が刺さらないの？

(菊地章雄)

発行 NPO法人霞ヶ浦アカデミー

発行日 2025年2月28日

事務所 茨城県行方市浜370番地1

ホームページ <https://k-acad.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/kasumigauraAC/>

メールアドレス kasumigaura.academy@gmail.com

鉾田市・井戸水 PFAS基準15倍

茨城県と鉾田市が鉾田川流域周辺の地下水を合同で調査した結果、一部の区域で暫定目標値を大きく超過している井戸が確認された。1リットル当たり70ナノグラムが検出された徳宿の井戸に加え、大戸、造谷でも暫定目標値（1リットル当たり50ナノグラム）を大きく超過した。